

平成14年度第2回宇都宮市生涯学習推進懇談会議事録

開催日時 平成15年3月26日(水)午後3時30分～午後5時

開催場所 14D会議室

出席委員 24名(別紙のとおり)

会議の公開・非公開の別 公開

【会長選出】

廣野係長

開 会

伊達会長

〔あいさつ〕

【議 事】

伊達会長

第2次宇都宮市生涯学習推進計画 事業計画の平成14年度の進捗状況について事務局から報告をしてください。

事務局

〔説 明〕

伊達会長

委員の皆様からご質問などございましたらいただきたいと存じます。地域主導型の事業推進がこれからのひとつの課題になってくるというようなことでしたが...

ご質問等ないようですので、それでは次に移ります。

(2)の第2次宇都宮市生涯学習推進計画の平成15年度事業計画と(3)の重点事業について、一括して説明をお願いしたいと思います。

事務局

〔説 明〕

伊達会長

ご質問、あるいはご意見がございましたらお願いいたします。私からひとつよろしいでしょうか。「親子読書促進事業」ですが、1歳6月健診時にというのは、なぜこの時期なのか根拠があれば伺いたいです。

丹生課長

宇都宮市では、小さなお子様の健診事業を行っておりますが、多くのお子様の集まるのが、1歳6月健診時ということで設定いたしました。

伊達会長

宇都宮市は転入者も多いし、育児不安が募るのはむしろもっと早い時期ではないかと思ったものですから。情報も積極的に手に入れる

お母さんはよいのですが、そうでない方のほうが心配な部分があります。情報を手に入れる手段が明示されているとよいと思いました。

どうしても行政の対応として方法は限られると思いますが、幼稚園の地域開放事業に参加している親御さんとか、保育園に子供を預けている親御さんの場合にはニュースソースがあるのですが、むしろそうでない場合に、虐待問題とか、育児不安とかいろいろなことが起きやすいということがあるものですから、こうしたことも引き続き考えていただきたいと思います。

大貫委員

「子供の読書活動推進事業」というのがありますが、地域で読み聞かせなどを何十年とやっている組織がありますが、こうしたものの関連についてどのように考えているのか伺いたいと思います。生涯学習の推進とか地域コミュニティ活動の促進とかいろいろな事業がありますが、地域における自治会との関連についてどのように考えているのかお聞かせ願いたいと思います。

丹生課長

地域では児童福祉課など庁内の他の課においても読み聞かせなどの事業を行っております。これら庁内他課とも協議し、また、ボランティアの協力がこの事業には欠かせない存在となっておりますので、今後市の広報でボランティアを募集しますが、1歳6月健診は市内の10箇所近くで行っておりますので、地域で活動されている方も含め募集をしたいと考えております。

川田総括主査

地域コミュニティ活動の促進は、現在地域に立ち上げをしているまちづくり組織の活動促進ということもできます。自治会が大きな組織であり、このまちづくり組織とイコールのような地域もありますが、地域には子供会や社会福祉協議会、青少年育成会などいろいろな組織があります。これらが横断的にまとまった組織というように捉えております。

大貫委員

当然新しいものをするにあたっては、旧来の組織というものを大切に考えながら、連携をとりながらやっているんだろうと思いますが、子どもの読書活動については、地域で相当な歴史をもって熱心に取り組んでおられる方々がたくさんあります。新しい事業をすることで旧来のものを潰してしまっただけではいけないと思います。そういう人たちを大切にしながらやっていかないと、ボランティア活動というものは長続きしないと思います。ですからよく連携をとって、そういう方々を今以上に育てながら新しい事業をやっていかないと大きなミスをしてしまうことになると思いますので、その辺をよろしく願います。

それから、自治会の中の組織というのは、子ども会から環境の問題

からいろいろなものが入っていて、自治会の人たちは自らお金を出して運営をしています。そうした中で、(まちづくり組織は)全市的に横断で、一つ一つの組織を抜き出してつくるように思えてしまう。自治会もまちづくりをボランティアでやっているのであって、コミュニケーションをとりながら進めていかないと地域の協力が得られなくなってしまうと思います。

丹生課長

読み聞かせのボランティアについては、既存のボランティアさんがいらっしゃるわけで、そうした方々には、それぞれの地域で現在の活動を継続していただき、市で行う事業については、そうした方々にもお声をかけながら、そうした事業とは別に読み聞かせを行おうというものです。

自治会との関係につきましては、それぞれ地域ごとに特性がございます。いずれの地域でも自治会が基本的な組織ですので、それぞれの地域の自治会にご相談をしながら、地域にふさわしいような組織としていきたいと考えております。

宮田委員

読み聞かせのボランティアをしておりますが、その立場から「子どもの読書活動」についてお伺いしたいと思います。

われわれは普段幼児や小学生を対象としていて、1歳6月というのはまだ赤ちゃんです。また健診会場というのは、一度に50人くらいのお母さんたちが集まると聞いております。お母さんたちは子どもを連れてくるだけで精一杯ではないかと思えます。そういうところで、読み聞かせを行うということが可能なのか、お母さんと子どもと一組ずつ子育て相談を兼ねて行うとかでないとかえって逆効果ではないかと心配に思えます。事業そのものは大変よいことなのですが、やり方をよく検討されることを希望します。

丹生課長

この事業については、来年度10月の実施を予定しており、それまでの期間に、生涯学習課をはじめ健康課、児童福祉課ともよく相談をして、どういう形で進めていくかを詰めて行きたいと思えます。現在会場の一角にコーナーを設けて実施したいと考えておりますが、その対象が何組がよいのか、なるべく少ないほうがよろしいわけで、また、読書の習慣づけという目的もありますので、それらを十分検討してまいりたいと考えております。

伊達会長

かつて調査をしたことがありましたが、1歳6月健診はどうしても午後実施するというので、お母さんも子どももゆとりがない状態で行われます。また、最近の新聞記事にもありましたが、むしろお母さんに絵本とか読み聞かせについての機会を提供しようという意図のほうが先なのかなという気もしました。宮田委員の言うように十分やり方について検討して行ってほしいと思えます。

鈴木委員	参考までに、どのような本を配布する計画なのか伺います。
大島補佐	詳細についてはこれから詰めてまいります。
佐々木委員	<p>計画については、PLAN・DO・SEE が言われます。ここで、評価に対する評価もしなければなりません。先ほど「満足度」という評価の視点は削除したという説明がありましたが、教育の評価の場合は、量的なものばかりではなく、定性的なもの質的なものも意識しなければいけないと思います。</p> <p>その上で、事業を評価する視点というものを私なりに提案すると、3つの視点が必要と思います。ひとつには、現状・現実を押さえているか。2つ目は、理念やどういうねらいがあるのか、そして、方法や条件整備が適切か、ということです。</p> <p>今議論にあった「読み聞かせ」についても理念とかねらいについては、多くの方が賛成だけれども、果たして現状との兼ね合いや、方法となるとどうなのだろうか。一番重要視しなければならないのは、現実をしっかりと見極めることだと思います。現状に至る経緯や現状が変わりそうな見込みがあるのかとか、ひとつひとつ丁寧に見ていけば、何が問題かが共有できてどこを重視すればよいのかが見えてくると思います。</p>
木主委員	<p>子供たちに本を配布して読み聞かせをするという行為は1回だけなのでしょうか。1回だけでそれが子どもの成長にどのような影響を及ぼすのか、生涯学習課として検討されているのでしょうか。と申しますのは、私たちの地域ではあるサークルが読み聞かせを行っておりますが、定期的に行うから必要なのだという考えで行っております。果たして1回だけの読み聞かせをやって、効果があるのでしょうか。生涯学習課が取り上げてすべきことなのでしょうか。</p>
大島補佐	<p>親子読書促進事業は一つの事業で、それぞれの所管課で読み聞かせの事業を行っております。最初に「子どもの読書活動推進計画」を策定すると申し上げましたが、その中で、現在各課でそれぞれに行っている事業を今後再編・体系化するということを考えております。そして子どもたちの年齢ごとに、既存のもの、新たなものも加えまして、子どもの読書活動を促進するような取り組みを充実させていきたいと考えております。</p>
橋立委員	<p>地域コミュニティ活動の中身について、まちづくり組織の地域活動に対する補助というのは、具体的にどんなことを想定し、どのくらいの予算規模なのか伺いたい。</p>
川田総括主 *	市街地の地域コミュニティセンター25 地域について、運営補助金

査	<p>各地区 10 万円，地域振興事業の補助金として各地区平均 10 万円，生涯学習事業については委託をし，これが 40 万円余でございます。郊外の 11 地域につきましては，まちづくり組織の運営補助金 10 万円，地域振興事業として 65 万円，この中身につきましては，ニュースレターの作成，地域のホームページの立ち上げ，まちづくり講座の開催，地域人材育成ワークショップ，四季を奏でるコンサートなど，いろいろ地域で立案をして実施していくという事業で，これを地域振興事業と呼んでおります。また，従来公民館が実施していた事業，高齢者教室とか少年ふるさと教室とかは，地区市民センターが直接公費で実施します。これが各地区 90 万円程度でございます。</p>
橋立委員	<p>新しい事業や，住民との協働という新しい考えに転換した直後ですので，地域にも相当乱れがあるという感じがします。今までの流れと違いますので，新しい市民活動組織が活躍する場所があるわけですが，空白ができたところに誰がそこに乗り込んでやるかということで，多分活動はちょっと停滞するのではないかと思います。事業補助金がありましたが，この事業を地域の中で誰がやるかある程度見通しが立っていないと予算があっても始まらないという気がします。</p>
廣野係長	<p>14 年度の試行を踏まえ，15 年度はただいま説明したような運営補助，事業補助を行うことといたしました。自治振興課には，市街地部につきましては 14 年度からですが地区を担当する職員を配置し，各コミュニティーセンター地域の地域振興，生涯学習の指導に当たってきております。また，地区市民センター地域におきましては，職員が直接事業に当たっております。</p>
伊達会長	<p>ひとつひとつやりながら積み上げていくという部分があるのでしょうかけれど，また，かなり地域によってばらつきが考えられますが，できるだけ全部の地域で成果をあげられるよう，お願いしたいと思えます。</p> <p>この部分については，いろいろなご意見が出ましたが，今後継続して考えながら進めていくということによろしいでしょうか。</p> <p>それでは，次に（４）の生涯学習フェスティバルについて事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>〔説 明〕</p>
伊達会長	<p>生涯学習フェスティバルについて，委員の皆様からご意見がありましたら，お願いしたいと思えます。皆様それぞれ様々なところでご活躍でしょうから，アイデアなどありましたらお願いしたいと思</p>

ます。

同じ宇都宮市の事業で「ちびっ子フェスタ」という催しがあります。清原体育館とその周辺で実施するのですが、ものすごい数の親子が集まります。お父さん、お母さんにはきっかけづくりにもなると思います。

木主委員

雀宮では、3月上旬に「子どもフェスタ」という催しを行っております。中学生のリーダースクラブがあって、その子どもたちが中心になって企画・運営をしています。よさこいソーランという出しものを小学生もやっていて、かなりの人数が集まります。生涯学習センターの事業とは別に子どもを中心に運営しています。

佐々木委員

理念的なものとして、生涯学習というのは、生まれてから死ぬまでという非常に広いものですので、是非世代間交流に焦点を絞ってはどうかと考えます。私は最近地域づくりというのは、大人の生き様を示すことだという話をします。地域の教育力がなくなったとよくいわれるのは、大人が地域にいなくなり、子どもが大人の生き方を見ることができなくなったということが大きいと思います。地域に残っているのは高齢者で、高齢者がどんな生き様をするかが、21世紀の子どもの教育の基礎をつくるのではないかと思います。ですからイベントで地域の子どもと高齢者が触れ合うきっかけが必要と思います。

また、教育というと子どもにばかり焦点が当たっていた反動で、生涯学習というと大人だけだという誤解があります。生涯学習は生まれてから死ぬまでの学習であり、生きることすべてにかかわります。非常に広いものですので、楽しいことが理想なのですが、フェスティバルをすると今度は楽しいことだけが生涯学習だという誤解がはびこる恐れがあります。しかしたとえば交通安全とかは死なないための生涯学習でもあります。そうしたら、今度はどんな道路にすればいいんだろうとか、そうしたことが生涯学習の大事なテーマで、それがまちづくり、コミュニティづくりにつながっていくのです。したがって行政も生涯学習懇談会には生涯学習課だけではなく、関連部課が臨むようになってほしいと思います。もちろん生涯学習は行政だけではできないわけで、フェスティバルを民間も含めた壮大なお祭りにしていくうえで、壮大なゆえに理念は必要と思います。

伊達会長

基本的な理念を押えておく必要があるということで、世代間交流という話が出てきました。また、どうしても社会教育的な大人のためのものという発想があるけれどそうではないということでした。

橋立委員

子どもたちに社会的な役割を担わせることが大切かと思います。ま

た，44 万都市ですからどこかの大きな施設でやるというのではなくて，まち全体がステージであったりギャラリーであったりという，そういうお祭りを是非考えていただきたいと思います。期間もある程度長く捉えて，いろいろなところでこのフェスティバルに関連する活動がある期間行われている状況を維持することもおもしろいかと思います。

諏訪委員 宇都宮はこれを目玉にしてやっていくというものをもたないとやっていけないと思う。国や県の指導のなかでやっていくという宇都宮市の生涯学習が定着してしまっているのではないのでしょうか。全部しようとせずもっと絞り込んで実施するべきだと思います。また，以前にも申し上げたが，生涯学習推進組織とまちづくり組織とは別のもので，混乱しているのは事務局の方だと思います。

伊達会長 社会教育と長い間言われていたものが生涯学習という新しい言葉になったけれども，実際生涯学習というものがこういうものだという概念をつくりあげるまでは，まだ到達していないように思います。手探りで何か新しいものを作り上げるまでの時間が，きっと必要なのだろうなという気がします。

諏訪委員 もう少し特色あるものに絞り込んでいかなければだめだということです。地理的にも他の地域とは異なるのだから，そういうところを大切に，生涯学習事業も絞り込んでいかなければ総花的になってしまいます。宇都宮ならではの実効性のあるもの，市民に息づくものをつくっていかなければならないと思います。どこの自治体を探しても宇都宮の生涯学習のような事業はないだろうというようなものがほしいということです。

丹生課長 第2次計画を策定して，これからどういう特色を出しながら進めていくかということです。生涯学習フェスティバルにつきましても1年実施すればそれでよいというものではなく，宇都宮らしいもの，これをメインに継続してやっていきたいというものを事務局レベルでも検討し，案を作成していきたいと思います。

諏訪委員 先ほど佐々木先生からよい指摘をいただいたと思います。死なないための学習も生涯学習です。たとえば県の女性の平均寿命がかつてはワースト2か3だったのが，ベスト5に入ったということが，もし特色ある生涯学習の結果だとしたら，それひとつだけでもすごいことだと思います。そういうようなことが宇都宮に根付いた特色ある生涯学習だと思います。

和田委員 フェスティバルについては，会場，規模，予算，期間などはやめは

やめにやっていった方がよいと思います。

また、私は宇都宮に来て1年に満たないのですが、はっきり言って宇都宮は特徴がありません。私は全国を転々としてきましたが、宇都宮は住みやすいし人柄もよいのですが、郷土に対する愛着心は全国に比べて薄いと思います。宇都宮はこれだよといったものをもっと強く出すべきだと思います。

個人的な意見ですが、子どもの教育は学校や家庭がすればよいのではないかと考えています。中高年の人たちが精一杯教養や趣味や知的好奇心に対して全力を尽くせばよいフェスティバルができると思います。

若い男性たちは会社で働くことに精一杯で、お母さん方も子育てで暇がありません。フェスティバルに来られるのは、子育ても済んだ中高年にならないと難しいです。したがって、年齢的にあまり間口を広げずにやったほうがよいと私は思います。

伊達会長

生涯学習とはなにかという、スタートの議論を必要とする状況になってきました。宇都宮市の生涯学習のアイデンティティをどうするかという根本の問題ですので、皆さんに改めてご意見をいただいて生涯学習行政なり協働をどういうスタンスとするのかという再確認が必要という気がします。

添田委員

年代や期間の問題など、いろいろご意見がありましたが、それらを網羅したフェスティバルができると思います。

先ほど説明にもありましたとおり、市内の各地区で文化祭をやっております。そしてそれぞれにカラーを持っています。宇都宮全体でそういうカラーを持っていると思います。健康なら健康でもよいし、中心市街地の活性化の問題まで入ってもいいと思います。まち中がステージという発想も楽しい。そうした中で生き方を選択できる、だからフェスフェスティバルなのではないかと思っています。

伊達会長

どういう世代であれどういう状況であれ、市民として参画できることが基本ではないかと思っています。これからフェスティバルの内容を詰めていくときに念頭においておきたいと思っています。

皆様にご議論を十分につくせなかったところがあるかと思いますが、また次回活発なご議論をお願いいたします。

本日は年度末のお忙しい中ありがとうございました。



宇都宮市生涯学習推進懇談会出席委員名簿(平成 15 年 3 月 26 日)

	氏 名	該当号	備 考
1	藤野 修逸	1	宇都宮市議会議員
2	大貫 隆久	1	宇都宮市議会議員
3	藤井 弘一	1	宇都宮市議会議員
4	諏訪 利夫	1	宇都宮市議会議員
5	篠崎 光男	1	宇都宮市議会議員
6	伊達 悦子	2	作新学院大学女子短期大学部教授
7	佐々木英和	2	宇都宮大学助教授
8	橋立 達夫	2	作新学院大学教授
9	宮田 直美	2	手づくり絵本の会「ポコアポコ」代表
10	和田 宏	3	NHK文化センター宇都宮支社長
11	木主 康明	3	宇都宮市中央生涯学習センター運営審議会副委員長
12	金子 耀誉	3	宇都宮地区幼稚園連合会長
13	岸 継明	3	宇都宮大学事務局長
14	大森 信男	4	連合栃木宇河地域協議会副議長
15	吉田 勉	4	宇都宮市国際交流協会副会長
16	大房 信一	4	宇都宮市体育協会会長
17	渡邊 泰秀	4	宇都宮市文化協会会長
18	花田 静子	4	宇都宮商工会議所女性部副会長
19	添田 包子	4	宇都宮市女性団体連絡協議会長
20	人見 智子	4	宇都宮市青少年団体連絡協議会副委員長
21	伊藤 信一	4	宇都宮モラロジ - 事務所代表
22	鈴木 宣次	5	公募委員
23	中村 真子	5	公募委員
24	重川たい子	5	公募委員

会長， 副会長